

## Book Review

## 悪魔のしるし『CARRY-IN-PROJECT 2008-2013 DOCUMENT: WORDS and IMAGES』

本号では「劇場の外へ」というテーマで、従来の「芝居」とは異なる体験を提供する演劇について取り上げた。この流れの一つにあるのが、危口統之氏が主宰する〈悪魔のしるし〉による『搬入プロジェクト(CARRY-IN-PROJECT)』である。物語を設定し、複雑な形をした巨大な物体を、観客とスタッフが持ち上げて運び、移動させる作品だ。その記録集『CARRY-IN-PROJECT 2008-2013 DOCUMENT: WORDS and IMAGES』が今年(2015年)の3月に刊行された。

同書では、東京のイベントスペースにおける第1回(2008年)から、韓国・ソウル市庁舎での第14回公演(2013年)までの記録が二冊組で収められている(なおプロジェクトは現在も継続中)。一冊は「DOCUMENT: WORDS」で、危口氏による論考や解説、スタッフや国内外のプロデューサーのエッセイやインタビュー、設計図とドローイング、地図、作業工程や道具を紹介する仕様書、用語辞典、上演した場所の各国搬入指示語などを収録。つまりこれまでの『搬入プロジェクト』を、タイトル通り「言葉」で出来る限り捉えた本である。もう一冊の「DOCUMENT: IMAGES」という写真集からは、ある目的のために人々が共に行動をすることで生まれる祝祭性が伝わってくる。

セゾン文化財団のジュニア・フェローとして2012年度から2013年度まで助成を受け、現在シニア・フェローの危口氏は、序文で『搬入プロジェクト』について「他の誰でもやっていたいし、やって欲しい。この本を作る意図もそこにある」と書いている。確

かに、同書を読み進めると、各地で多数の観客が物体を持ち上げて運んできたプロジェクトが、やがて彼の手を離れて、あらゆる場所に拡散するのではないかと思えてくる。これは記録集であるだけでなく、創作過程を開示したオープンソースでもある。つまり、従来と異なる演劇作品をつくる際の指南書として、そして新しい演劇論として捉えるべきなのかもしれない。(F)



定価: 本体3,980円/税込  
 購入情報等: [http://akumanoshirushi.com/CIP\\_document00.htm](http://akumanoshirushi.com/CIP_document00.htm)

## viewpoint セゾン文化財団ニュースレター第72号

2015年10月10日発行

編集人: 片山正夫

発行所: 公益財団法人セゾン文化財団

〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-1 東貨ビル8F

Tel: 03-3535-5566 Fax: 03-3535-5565

URL: <http://www.saison.or.jp>E-mail: [foundation@saison.or.jp](mailto:foundation@saison.or.jp)

●次回発行予定: 2015年12月末 ●本ニュースレターをご希望の方は送料(92円)実費負担にてセゾン文化財団までお申し込みください。